

肥料を使い分ける

■肥料成分の5タイプ

	イメージ	特性	特徴
水平型		あらゆる植物に適している	特に株を充実させる時期に適している
山型		草花、鉢花、花木、果樹、野菜（果菜類）など	花や実着きを良くするリン酸（P）成分を多く含むタイプ
谷型		肥料の効率を重視する農業用の追肥	水に流されやすいチッ素（N）、カリ（K）成分を補給するタイプ
下がり型		観葉植物、芝生、樹木、野菜の葉菜類などや育苗期	葉緑素をつくるチッ素（N）成分を多く含むタイプ
上がり型		室内の鉢花、球根、野菜類（根菜類）など	株を丈夫にし、根を充実させるカリ（K）成分を多く含むタイプ

■施肥方法による使い分け

施肥方法による使い分けには大きく分けて、元肥に適するタイプと追肥に適するタイプがあります。

(1) 元肥には、各成分が同じ水平型やリン酸（P）成分の多い山型が最適で、「花咲く化成肥料」（チッ素4：リン酸14：カリ5）などがあります。

(2) 生育旺盛期（栄養生長期）の追肥には、チッ素（N）成分の多い下がり型が適し、生育の後半のツボミをつけ、花を咲かせ、実をつける時期（生殖生長期）（P）成分やカリ（K）の成分が多い山型や上がり型が最適です。

また季節でいえば、秋には、株を丈夫にし、耐寒性を増す働きがあるカリ（K）成分の多い上がり型を使用することをおすすめします。

■ガーデニングミニ知識

●肥料の成分表示

肥料の袋や箱に掲載されている「N:P:K=6:10:5」などの表示は、肥料分量の割合を示す、重量パーセント（%）で、数字が大きいほど、成分が多いこととなります。

●肥料の保存方法

使用後は必ず、液体肥料は密栓し、袋に入っているものは密封して、直射日光、雨、水のかからない場所で保管します。一度、薄めた液体肥料の希釈液を置いておくと栄養成分が劣化しますので、使い切ってください。肥料には有効期限はありません。

